



足立区立六月中学校

令和2年度
第7号
校長 塚原 洋

「訓練と想定外」

多くの著書がある齋藤 孝氏の随筆に次のようなものがありました。今となっては有名な話ですが、岩手県釜石市の小中学生の取った行動のことで。

「釜石市には、海岸から約1キロの所に鶴住居（うのすまい）小学校、釜石東中学校が隣接しており、東日本大震災となる地震発生時、両校にいた570人の子どもたちと教職員は自主判断で即座に避難行動を開始し、無事に津波の難から逃れたとのことです。

地震発生の瞬間、校舎には大きな被害がなかったため、中学生は最上階の3階に全員集まりましたが、ここでは危ないと判断した中学生たちは校庭に飛び出しました。

すると、その様子を窓から見ていた小学生も一緒に校外へ。中学生はその小学生たちの手を引いて、裏手500メートル後方の高台にある指定避難場所のグループホームに避難しました。ところが、背後に迫ってくるごう音と波しぶきを見た彼らは、ここでも危険と判断し、さらに500メートル後方の介護福祉施設まで退避しました。その間に要した時間はわずか10分。津波は小中学校を飲み込み、グループホームも飲み込み、介護福祉施設の100メートル手前で止まりました。

同じような立地条件にあった他市町村の学校は、大変な被害を受けた中で、なぜ釜石に奇跡のようなことが実現したのか。

それは、この地域では、何度か大きな津波を経験しており、「避難三原則」を設け訓練を強化してきたそうです。

①「想定にとらわれない」 ②「状況下で最善を尽くす」 ③「率先避難者になる」

両校では普段から合同訓練を行い、非常時に取るべき行動を子どもたちに徹底的に指導していたのです。実は、両校の周辺は「浸水想定区域外」でしたが、「これは普通の地震ではない」「津波が来るかもしれないから、もっと高い所へ逃げた方がいい」「下級生を連れて、今、すぐに」。まさに、想定にとらわれず、見事な行動をとりました。」

後に釜石の方々は「奇跡ではない」と語り、「訓練してきたからこそ取れた行動である。」ということも間違いありません。その上で想定外のことが起きることがあるからこそ、想定にとらわれずに自主的に判断し行動することが大切であるということです。

訓練してきたことを生かし、考え、想定外の行動へと結びつける。過去を生かし現在、未来へつなげる訓練であり、行動であり、思考であると思います。

東日本大震災から来年の3月で10年です。学ぶべき事はまだまだたくさんあるはずです。

六月中学校周辺は荒川が氾濫したと想定すると90cm水没します。その様な警報が出たとするどどのように行動すればいいでしょうか。巨大地震や巨大台風など「考えて行動する」必要があるときがやってきます。家族と一緒にいるときや学校にいるときばかりとは限りません。地震に関してはいつ起こるかも分かりません。万が一に備え考え家族で話し合っておくこと、考えておくことが大切であるはずです。

六月中でも、この釜石市の学校のように、いつ起こるか分からない災害や出来事に備え一人一人が想定にとらわれず、その時の状況に対してベストの方法を探りつつ率先して行動し、地域や



社会に貢献できるような生徒を育てていきたいと考えています。

東日本大震災で失ったものは計り知れませんが、苦難から私たちは多くのことを学び取ることができました。私が経営方針として打ち出している【育てたい生徒の姿】には「自ら考え判断し行動できる生徒」があります。与えられるのを待つばかりでなく、与えられるのが当たり前と思うのではなく「今、必要なことは何か、何が求められているのか、どのような行動を選択すれば正しいのか、時や場所、状況を把握し、考え、判断し、行動に移せる。」そんな実践力のある生徒を育ててまいります。

新型コロナウイルス感染症対策として、学校行事や学年行事などが中止となり失った時間もありますが、失ったものを数えるのではなく、その中から学んだこと、気付いたこと、新しい発見や方法が構築されたことなどを未来へつなげることも大切です。学校内でもその様な見方や考え方ができる生徒へと成長してきています。

学校を中心としながらもご家庭、保護者、地域の皆様とともに、将来を担う生徒の育成を共に進めてまいりましょう。よろしくお願いいたします。



また、世界中で想定外であった新型コロナウイルス感染症の猛威が止まりません。感染爆発を抑えつつ自粛と緩和を繰り返しながら、インフルエンザのように新型では無くなる日まで、用心深く、新しい生活様式を徹底しながら生活していく事が強く求められています。

感染症対策である小まめな手洗いやマスクの正しい着用、換気、3密を避けるなどの徹底を学校とご家庭でも進めていただければと思います。

合わせてご協力よろしくお願いいたします。

◇学年別運動競技会◇

3学年 保健体育科 井上智

第3学年運動競技会を終えて

校長先生の発案により、学年別、規模は小さいながらも運動競技会を行えるようになった。新型コロナウイルス感染症のため運動会、文化祭、修学旅行等の大きな行事がことごとく中止となり、生徒たちの少しでも思い出になれば良いとの校長先生の強い思いからの発案であった。生徒たちは、これを聞き、とても喜んだ。

3年生では、実行委員会をすぐ作り、生徒と先生で種目や方法を考えた。生徒の中から、「足の速い生徒ばかりが活躍するものではなく、みんなが楽しめる種目も入れてほしい」という声も上がった。その結果、「タイヤ転がし」や「タイヤリレー」「ピョンピョンリレー」なども種目として入れられた。泥だらけのタイヤをきれいに洗ったりと準備は大変だったが、生徒たちは泥だらけになりながら一生懸命準備に取り組んでくれた。また、クラスでは全員リレーの順番をみんなで遅くまで話し合ったりとクラスが担任の先生や実行委員を中心にどんどんまとまることができた。

当日、参加者全員が、規律のある中どの競技にも全力で取り組んでいる姿はとても素晴らしく感動させられた。特に開会式での実行委員の代表、選手宣誓は3年3組の伊勢君が行ったが、大きな声で、心がこもり、今までのどの運動会の選手宣誓よりも立派な選手宣誓だった。

運動競技会が大成功に終わり、学年だよりで生徒の感想が載った。勝ったクラス、負けたクラスの関係なく、心を打つ感想ばかりで涙を流しながら読ませていただいた。学校全体での運動会はできなかったが、今までの最高の運動会となり、素晴らしい思い出をいただいた。校長先生をはじめ、実行委員の皆さん、3年生全部の生徒の皆さん、ありがとうございました。



「運動競技会を終えて」

コロナウィルスの関係で、多くの行事が中止となる中、運動競技会が開催できたことに感謝いたします。

また、実行委員会の生徒を中心に学年の先生方の協力のもと、実施したことに改めて周りのサポートの大切さを実感しています。

本番を迎えるにあたり、準備の段階から各クラスが優勝を目指し、生徒同士で話し合ったり、ポイントを調べたり、盛り上がっている様子が見られました。当初は意見の食い違いやなかなか協力できない様子がありましたが、徐々にクラスとしてまとまっていく姿が授業で見られ、短期間で成長する子どもたちを微笑ましく思いました。

当日は、それぞれ思いをもって、一生懸命に取り組む姿が印象的で、仲間に対しての優しい声かけや全力で応援する姿も多く見られました。一人ひとりが全力で取り組み、仲間のために頑張り、クラスが一つになる姿こそ本来の行事の在り方だと感じました。

今回の経験を自信につなげ、学校生活でも生かして欲しいと思います。



1 学年 保健体育科 荒木恵子

運動競技会を終えて

今回の運動競技会は、生徒一人一人が活躍できるように種目を考えて行いました。個人種目では、走るのが得意な生徒のための 100m 走や苦手でも楽しく取り組める障害物走（山あり谷あり）。ラケットを使用する「Carry on the racket」など種目をアレンジして行いました。クラス対抗の競技は、クラス一丸となって取り組んだ綱引き。練習では、その時々で勝敗は変わり、本番までどのクラスが勝つかわからないくらいどのクラスも一生懸命作戦を考えて臨んでいました。

また、全員リレーでは、学年全員で取り組めるようにとクラスを超えてのチーム編成とし、他クラスの生徒や先生方も協力しながら、リレーに取り組みました。全体練習の時間は取れませんでしたでしたが、それぞれの生徒がチームのため、クラスのためにと練習に励んでくれたおかげで運動競技会を無事に成功させることができました。



そして、この競技会を支えたのは立候補で名乗りを上げてくれた実行委員の生徒のおかげです。本来は様々な委員会で分担して行う仕事を 10 名の委員が行ってくれました。当日様々な事情で競技に参加できなかった生徒も、準備・片付け等に取り組んでくれ、全員で作り上げた運動競技会となりました。競技の中で、嬉しかったり悔しかったり様々な思いがありました。生徒たちは来年もまた頑張りたいと意欲を燃やしているところです。

～引き続きご協力をお願い～

新型コロナウイルス感染症はまだ終息したわけではありません。日本でも再び猛威を振るっています。

六月中学校においても新型コロナウイルス感染症対策は今後も引き続き行ってまいります。家を出る前の手洗いや登校後の手洗い、消毒などお子様へのお声かけをお願いします。防寒対策もお願いします。

清潔なハンカチやハンドタオル、ティッシュペーパーの持参とマスクの正しい着用の徹底、水筒の持参など引き続きご協力ください。感染症対策においてはご家庭の協力がなくては成り立ちません。

今一度、下記をお読みいただき、必要なときには必ずご連絡ください。

1 ご家庭での確認

(1) 健康チェック

- ① 毎朝のお子様の検温をおこない、ご家族も検温するなど健康観察を徹底してください。
※検温を忘れる生徒が増えてきています。
- ② 発熱や咳が出るなど風邪症状がある場合には無理に登校させず、登校を控えていただければと思います。
- ③ 土日に体調を崩した場合などもヘルスチェック表に記入させてください。

2 学校への連絡

(1) 次の場合には学校に速やかにご連絡ください。

- ① お子様に発熱や風邪症状がある。
- ② ご家族がPCR検査を受け、お子様が濃厚接触者として特定された。
- ③ お子様がPCR検査を受ける。
- ④ お子様が海外から帰国や入国した。
- ⑤ お子様のPCR検査が判明した。
- ⑥ ご家族が風邪症状、濃厚接触者、PCR検査を受ける、海外から帰国、入国した。
※⑥の場合はお子様の登校に制限があるわけではありませんが、ご連絡いただくと助かります。

2020. 11. 27

第2回学校運営協議会、開かれた学校づくり協議会が開催されました。

5か月ぶりに図書室で学校運営協議会と開かれた学校づくり協議会が開催されました。昨年度までは別日の夜間に行っていた会ですが、今年度は同日開催とし学校運営協議会を先に行い続けて開かれた学校づくり協議会を行う形式にしています。これは学校運営協議会委員全員が、開かれた学校づくり協議会委員を兼任しているため新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の回数を減らす意味合いもあります。

当日17時、学校運営協議会の冒頭の挨拶で学校運営協議会長の芦川さんから「CS（コミュニティスクール学校運営協議会）は、開かれた学校づくり協議会の役員会と考え運営している。」と説明がありました。

今回の議題は2件で、1つ目は、令和2年度学校経営計画・自己評価書について塚原校長から今年度の成果目標は学力向上とし区の学力定着に関する総合調査の通過率60%とし、教員の指導力向上や放課後補充教室、家庭学習ノートの充実などの説明があり了承されました。2



つ目は、今年度の三校連携事業の概要案を芦川会長から説明がありました。今年度の三校連携事業の内容は、『新型コロナウイルスの感染が広がる中で、学校や子ども達を守るために何ができるかを考える会』となっています。会の中で区の担当者にコロナ対策として子ども達のために疑問・要望を出し区から対応策を聞く予定です。各委員から、いろいろな意見が出され、今後三校の役員会により意見をまとめていくことになりました。事務連絡後、18時に閉会しました。

18時より引き続き、開かれた学校づくり協議会が開催されました。挨拶の後、学校から生活指導、各学年の教員

から現状の報告があり、塚原校長から令和2年度学校経営計画・自己評価書の説明、開かれた学校づくり協議会長の芦川さんから三校連携事業の説明があり19時に閉会しました。

委員の皆様、いつも学校のためにご理解ご協力をいただきありがとうございます。

三校連携事業開催中止

12月12日（土）開催予定の三校連携事業が、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、三校が一堂に会しての開催については中止にすることになりました。なお、開催はしませんが、要望書については、区から回答をいただき開かれた学校づくり協議会に報告されることになっています。